

4年間のカリキュラム（抜粋） ● 必修科目

仏教精神のもと患者さんに向き合い寄り添える医療人を養成

全学生が履修するリベラルアーツ教育科目には、建学の精神「仏教精神に基づく女子教育」を基盤とした豊かな教養と幅広い視野を身につけるため独自の科目を開講。本専攻では、「仏教と医療福祉」や「ターミナルケア」などの科目を通し、医療人として大切な患者さんに向き合う心を養います。

	学部・学科共通開講科目	専門基礎科目	専門科目	実習ステップ
1 年次	● 専門職の連携（基礎）	● 基礎ゼミⅠ・Ⅱ 言語運用と数的処理の基礎	● 臨床医学総論 ● 言語発達学 ● 音声・言語・聴覚医学Ⅰ（呼吸発声発語系）・Ⅱ（聴覚系）・Ⅲ（神経系） ● 言語学 ● 失語症Ⅰ ● 言語発達障害学ⅠA（各論）	1日見学実習 [11月] 言語聴覚士の仕事を初めて体感する 臨床現場で働く言語聴覚士の仕事を実際に見学し、大学で学んだ知識を基に、患者（利用者）さんの症状を観察します。
2 年次	- 日常生活支援学 ● 医療福祉連携論 - 障害者福祉 ● 仏教と医療福祉Ⅰ	● 教育学	● リハビリテーション概論・医学 ● 認知・学習心理学 ● 臨床歯科医学・口腔外科学 ● 音響学 ● 音声学 ● 言語発達障害学Ⅱ（評価） ● 摂食嚥下障害学演習 ● 失語症演習 ● 臨床医学Ⅱ（耳鼻咽喉科・形成外科）	臨床実習（見学実習） [1週間] 専門知識を基に実践力につなぐ 専門科目の講義で学んだ知識を基に、患者（利用者）さんの言語症状をおおまかに捉えること、訓練や指導の目的を考えることを目標に学習します。
3 年次	- 包括的ヘルスケア論 ● 生命倫理 - ターミナルケア - 地域災害リハビリテーション	● 社会と統計 ● 社会保障制度・関係法規 - 栄養サポート論 - 健康カウンセリング	● 臨床心理学 ● 言語聴覚障害診断学演習Ⅰ（小児）・Ⅱ（成人） ● 高次脳機能障害演習 ● 言語発達障害学演習 ● 発声発語障害演習Ⅰ（小児）・Ⅱ（成人） - 言語聴覚障害学総合演習（検査・機器） ● 聴覚障害学演習	臨床実習（評価実習） [2～3月（4週間）] 専門知識から実践での評価力を高める 訓練、指導を見学しながら、患者（利用者）さんの言葉や反応を記録する実習を実施。その後、授業で学んだ検査の実施や症状の評価を実践の場でトレーニングし、確かなスキルを身につけます。
4 年次	- 専門職の連携（応用） ● 仏教と医療福祉Ⅱ		● 卒業研究 ● 専門ゼミⅠ・Ⅱ ● 言語聴覚障害実習Ⅲ - 言語聴覚障害実習Ⅳ - 認知症特論 - 摂食嚥下障害学特論	臨床実習（総合実習） [6～8月（8週間）] 訓練・指導プログラムを立て実践する 評価実習で学んだ症状の評価方法を再確認し、その結果に基づいた訓練・指導プログラムを立案し、実際の訓練・指導までを実習します。さらに他職種との連携などチーム医療の最前線も学びます。

※上記は開講科目の一例です。カリキュラムの内容については一部変更になる場合があります。